37	香川県綾南町立陶小学校	17～19

平成17年度研究開発実施報告（要約）

１　研究開発課題

表現に関する内容を統合した教科を創設し，感じる心を大切にした豊かな表現力の育成を目指した研究開発

２　研究開発の概要

豊かな表現は，自然や美しいものに感動する心や創作する喜びによって支えられる。そこで，身近な環境に関わり，心を動かし，自分の思いを表現していく教科『キラリ科』を全学年で年間70時間設定し，表現力の育成を軸にした教育課程を構成する。

具体的には，表現する楽しさを味わわせ，表現する力を高めるために，教科における表現的内容を洗い出し，国語科や他の教科，総合的な学習の時間との連携や学年に応じた教材の開発，指導方法について研究を進める。また，質の高い表現に出合う機会を設けたり，学年に応じた劇を創作し発表したりしながら,『キラリ科』を通して，自分らしさを発揮して生き生きと表現できる児童を育てる方策を探る。

３　研究の目的と仮説等

（１）研究仮説

①　身近な環境の中でいろいろなことに関わり，心を動かし，自分の思いをさまざまな方法で表現するための時間として,『キラリ科』を全学年週２時間設定する。これは，外に向かって自分がキラリと輝く時間にしようということから名付けた。自己表現力を支える要素は国語だけでなく，他の教科においても多く求められる。それらを関連させて表現する力を高め，表現する楽しさを味わわせる。

②　豊かに表現するためには，まず，豊かに感じる心が大切である。そこで『キラリ科』では，貴重な経験の一つとして一流の音楽や演劇などの鑑賞を通して，質の高い表現に出会わせる。今までにない表現活動に接することにより，感動する心や美しさ，楽しさ，素晴らしさなどを心から感じとってほしい。そして，その表現の技法を模倣したり，アレンジしたりして自分の表現に取り入れ，心とつながった表現力を高める。

③　『キラリ科』で培った多様な表現力を生かし，学年に応じ劇・ダンス・ミュージカルなどを取り入れた演劇的活動を行う。そこでは，一人一人が役を演じるとともに，音楽，振り付けなど自分たちで表現の工夫を行い，それを楽しむ場とする。

④　年１回，学年発表の場を設ける。各学年の演劇を鑑賞し，互いの表現を楽しむ機会とする。それぞれの表現のよさ，工夫などを見つけ，互いに鑑賞したり，認め合ったりする。また，保護者や地域の方を招き,児童を育てる立場の人たちが,表現することの素晴らしさを感じたり，児童のよさを見つけたりする場とし，地域への表現活動の発信とする。

以上のことから，児童は，主体的にものを感じようとする心や多様な感じ方を身に付けるとともに，自分を表現する力を伸ばし，その楽しさを味わい，自信をもって自己表現しようとする意欲を高めるであろう。それは,表現することによって,集団の中での存在感や自己肯定感を高め,他との交流・コミュニケーションを円滑にすることにもつながるであろう。これらは，今求められている豊かな人間性の育成の基盤となるものであると考える。

（２）教育課程の特例（学習指導要領によらない部分）

①　『キラリ科』の時間を全学年週２時間設定する。

②　１・２年は，国語科・生活科･音楽科・図画工作科・体育科より２時間を，３・４・５・６年は，国語科・総合的な学習の時間･音楽科・図画工作科・体育科より２時間を削減する。

４　研究内容

（１）教育課程の内容

①　『キラリ科』新設の価値について

まず,『キラリ科』を新設することが，本校児童にとってどのような価値があるかについて整理した。

ア　児童の表現力に関する実態分析

表現に関する意識調査を行ったところ，次のような実態が見られた。

（詳細は実施報告書に掲載）

＜話すことについて＞

○　授業中や朝の会など改まった場で進んで話そうとしていると答えている児童は半数に満たない。その理由として，次のことを挙げている。

　ア　話したいことや考えが思い浮かばない。

　イ　うまく話せない。

　ウ　周囲の人がどう思うか気になる，恥ずかしい。

○　イのうまく話せない理由として多くの児童が挙げたことは，次のとおりである。

・　話す内容が整理できない。

・　言葉が思い浮かばない。

○　話すとき，相手に対して配慮していることのうちで，意識の低い項目は次のとおりである。

・　相手の顔や目を見て話すこと

・　笑顔で話す

○　高学年になるほど相手への配慮が薄れ，特に「話の組み立てを考えて話す」「ていねいな言葉で話す」「相手の顔や目を見て話す」ことが低くなっている。

＜自分の思いを表現したい方法について＞

○　1年生の時には，いろいろな表現方法を選ぼうとするが，学年が進むにつれて一人が選ぶ表現方法は少なくなっている。

○　方法別に見ると「作文や日記」，「スピーチ」は比較的多いが，歌や演奏，ダンスやジェスチャー，詩による表現は特に少ない(4 年生のジェスチャーは例外)。

このような実態から，相手の気持ちを察しながらやりとりをしたり，大勢の人前でも臆せず意見を述べたりすることができるようなコミュニケーションの力や，言葉や身体，歌や絵などいろいろな方法で「自分らしさ」を表現する力を培うことが，本校児童の課題であることが明らかになった。

イ　児童に身に付けさせたい資質・能力

上記のことから，本校児童に身に付けさせたい表現力に係る資質・能力を「他者とコミュニケーションする力」と「体全体の感覚や想像力を働かせて表現する力」として捉え，その内容を次のように整理した。

＜コミュニケーション力＞
・他者との関わりの中で，自分の立場や役割を捉え，他者に対応する態度と力
・相手や登場人物の気持ち，場面の様子などを感じ，想像する態度や力

＜　表　現　力　＞
・表現を楽しむ気持ち
・体全体の感覚を働かせて役柄になりきる力
・相手や場に応じた伝え方を工夫する力
・伝えたい主題を言葉や動作で効果的に表す力

キラリ科の目標及び内容の設定

ウ　新教科として教育課程の中に位置づける必要性

本校児童の実態より，「他者とコミュニケーションする力」と「体全体の感覚や想像力を働かせて表現する力」を直接的に育成する学習の必要性を痛感し，新教科として教育課程の中に位置づけることとした。

劇化という表現方法は，教科や道徳，総合的な学習の時間等の中で，その目標を実現するための一つの手法として用いられることはあるが，表現力の育成と人間性や感性の育成を目

的として,演劇を創作したりその基礎となる能力を培ったりする内容は現行の教科にはない。

そこで,『キラリ科』を，身体から発する音声言語や動作による表現の基礎的技能の定着とともに，その技能を活用し，感性と想像力を働かせて自分の思いをかたちにしていく教科とする。このことにより,「確かな学力」と「豊かな人間性・感性」の両面を育成することにつながると期待できる。

② 『キラリ科』目標及び内容について

ア 設定の基本的な考え方

次の基本的な考え方により,『キラリ科』の目標及び内容を設定した。

○ 自分の考えや思いを表現しようとする意欲を高めるために，音声言語や身体表現を取り入れた活動を行う。

○ 言葉や音楽や体を使って楽しく表現活動に親しみ，多様な表現技能を身につけさせるために，歌ったり，演奏したり，踊ったり，制作したりする活動を行う。

○ 培った力を生かし高めるために，学年に応じて，劇・ダンス・ミュージカルなどを取り入れた演劇的活動を行う。

○ 自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり，目的や場面に応じて適切に表現したりする力を育てるために，語彙を広げたりさまざまな表現方法を指導したりする。

○ 美しさ・楽しさ・素晴らしさなどを感じる心を育て，自分の表現に生かすことができるようにするために，優れた音楽や演劇・美術などの鑑賞の機会を設ける。

○ 身近な環境の中で豊かな学習活動を展開するために，生活科や総合的な学習の時間で実施してきたように，保護者や地域の専門家などの協力を得た多様な学習活動，他の学校や企業・社会教育関係団体等との連携，地域の自然や文化財・伝統的な行事，施設設備等の活用をする。

イ 教科としての目標

『キラリ科』の目標

演劇的な表現や鑑賞の活動を通して，自己を認識し他者を理解する能力と豊かな表現力を養い，よりよい人間関係をつくろうとする態度を育てる。

ウ 各学年の目標及び内容

各学年の目標及び内容については,「Aコミュニケーション」,「B表現」,「C鑑賞」の３領域により，次のとおり設定した。

A 表現を楽しみ，進んで他者とコミュニケーションすること

B 体全体の感覚や想像力を働かせて表現すること

C 友達の表現や優れた表現を鑑賞すること

各学年の目標

	A コミュニケーション	B 表 現	C 鑑 賞
一・二年	コミュニケーションゲームや表現遊びなどの活動を通して，場面や相手に応じて楽しく言葉や動作で表現することができるようにするとともに,進んで他者にかかわろうとする態度を育てる。	イメージしたことを体全体の感覚を働かせて即興的に表現したり，体験したことや読書したことなどをもとに想像を広げ，場面の様子や人物の気持ちを台詞や動作などで表現したりすることができるようにする。	友達の表現や優れた演劇などの作品を見たり聴いたりすることに関心をもち，その楽しさを味わうようにする。
三・四年	表現遊びや演劇の創作活動を通して，場面や相手に応じて楽しく適切に言葉や動作で表現できるようにするとともに,他者の個性を認め，進んで他者にかかわろうとする態度を育てる。	イメージしたことを体全体の感覚や技能を働かせて即興的に表現したり，体験したことや読書したことなどをもとに想像を広げ，伝えたい内容や気持ちに合った台詞や表情，動作，背景などを考え表現したりすることができるようにする。	友達の表現や優れた演劇などの作品のよさや美しさに関心をもって見たり聴いたりするとともに，それらに対する感覚などを高めるようにする。
五・六年	表現遊びや対話劇，演劇の創作などの活動を通して，場面や相手に応じて楽しく適切に言葉や動作で表現できるようにするとともに,実生活のさまざまな場面に置き換えて考え，進んで他者にかかわろうとする態度を育てる。	体験したことや読書したことなどをもとに想像を広げ，表現しようとする役柄になりきって台詞や表情，動作などを工夫することができるとともに，伝えたいテーマに合った背景や道具作りなど，協力して舞台づくりをすることができる。	友達の表現や優れた演劇などの作品を進んで鑑賞し，そのよさや美しさを感じ取り感性を高めるとともに，自分の表現に生かすようにする。

各学年の内容

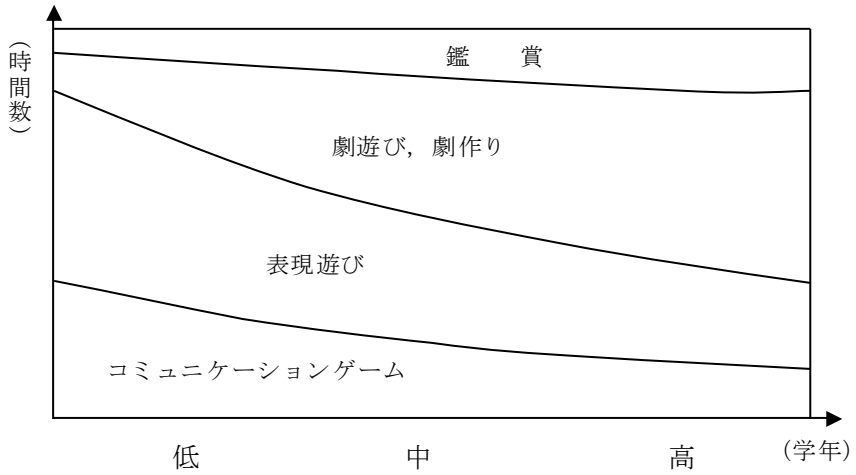
	A コミュニケーション	B 表 現	C 鑑 賞
	ア 相手に対応する視線 イ 言語によるやり取り ウ 表情や動作によるやり取り エ 言葉遣い	ア 音声表現 イ 身体表現(役作り) ウ 脚本，台本，劇作り エ 道具作り，演出	ア 優れた作品の鑑賞 イ 友達の表現の鑑賞
一・二年	ア 相手の目を見て話したり聞いたりすること イ 話題に沿って話し合うこと ウ うなずいたり，相槌を打ったり拍手をしたりしながらやり取りすること エ 場に合った，ていねいな言葉遣いをすること	ア 姿勢や口の形に気をつけて楽しく話したり読んだり歌ったりすること イ 身の回りの事物の特徴を捉えたり，人物の気持ちを想像したりして動作や表情を工夫すること ウ 場面の様子や登場人物の気持ちを想像して簡単なせりふを考えること エ 手に持つ道具や身に付けるものなど必要なものを身近な材料を使って作ること	ア 優れた作品を見たり聴いたりして，表し方の楽しさに気づき，いろいろな表現方法に関心をもつこと イ 友達の表現のよさや面白さを見つけながら，楽しく見たり聴いたりすること
三・四年	ア 相手の目や話題にしているものを見て話したり聞いたりすること イ 互いの考えの相違点や共通点，質問したいことを考えながら進んで話し合うこと ウ 共感的に相手を受け止める表情や動作を伴ってやり取りすること エ 場に合った，ていねいな言葉遣いをすること	ア 適当な音量や速さで話したり読んだり，気持ちを込めて歌ったりすること イ 表したいものの特徴をとらえて全身を使って表現したり，人物の気持ちや場面の様子を想像し役になりきって演じたりすること ウ 調べたことや想像したことをもとに場面を考えて短い物語や脚本を作ること エ 必要な道具や背景を作ったり，場面に合った服装を考えて準備したりすること	ア 優れた作品を見たり聴いたりして表し方の多様性に気づき，それぞれの表現方法の面白さや美しさに関心をもち，想像を広げることこと イ 友達の表現のよさや工夫に気付き，関心をもって見たり聴いたりすること
五・六年	ア 相手の目や話題にしているものを見て話したり聞いたりすること イ 自分の立場や意図をはっきりさせながら，計画的に話し合うこと ウ 共感的に相手を受け止める表情や動作を伴ってやり取りすること エ 敬語を使うなど相手や場に応じた言葉遣いをすること	ア その場の状況や目的に応じて音量や速さ,抑揚などを工夫し，話したり朗読したり歌ったりすること イ 表したいものの特徴をとらえて全身を使って表現したり，人物の気持ちを想像し，役になりきって全身で効果的に表したりすること ウ 調べたことや想像したことをもとに場面の展開を考えて物語や脚本を作ること エ 道具や背景，衣装など場面を効果的に表すために必要なものを考え，集めたり制作したりすること	ア 優れた作品を見たり聴いたりして表現方法の面白さや美しさに関心をもち，表現の意図や効果を考えるとともに，想像を広げること イ 友達の表現のよさや工夫に気付き，自分に取り入れることを前提に，進んで見たり聴いたりすること

③ 『キラリ科』の単元について

ア 単元開発の基本的な考え方

『キラリ科』の単元開発は，現在演劇教育で行われている内容を参考にしながら，演劇の構成要素を分析し，発達段階により配列して学年の学習内容を設定することとした。

右の図は，その全体構造を示したものである。活動内容を「コミュニケーションゲーム」「表現遊び」「劇遊び，劇作り」「鑑賞」とし，その活動量と発展性について，子どもの発達段階を横軸に，時間数を縦軸にして表している。



低学年	・相手の存在を感じ，人と楽しく関わる楽しさを十分味わわせる活動を重視する。 ・表現遊びを取り入れた活動に時間をかけ，グループでの簡単な劇遊びへと発展させる。
中学年	・3 年生では表現遊びを中心に行い，やがて劇遊びへと発展させる。 ・年齢が 10 歳を超える 4 年生では，全体の中での自分の位置や役割が考えられるようになるので，共同で創造活動ができるようになる。グループや学級での劇作りに取り組ませる。
高学年	・表現遊びから，観客を想定した劇の創作へと発展させる。 ・テーマを持ち，構想を立てる。 ・創意工夫しながら個人あるいは共同で創作する。

④　『キラリ科』における指導方法と評価について

指導にあたっては，児童の集団の中での自己肯定感を大切にし，表現したいという意欲をかき立てる方法を探ってきた。評価についても次のような方法で実施した。

ア　指導方法の工夫

・　1 時間の中にエクセサイズと振り返りを行う。エクセサイズは，二人組み→4，5 人のグループ→8～12 人程度のグループ→学級全員などいろいろな人数で行う。振り返りでは，グループ内での対話や学級全体での発表という形をとる。必要に応じて「振り返りカード」を活用し，自己評価をしたり感想を書いたりする場を設け，指導と評価の一体化を図る。

・　エクセサイズに入る前のウォーミングアップを必要に応じて取り入れる。

・　劇作りでは，発達段階や興味関心など児童の実態に合わせて，児童に題材を選択させたり創作していく手順を示したりする。

・　専門家による演劇や芸術作品の鑑賞に当たっては，作品との対話や児童同士の対話を重視する。自分なりの考えをもつことを作品の価値を知ることより優先し，友達との違いを肯定的に認める助言をする。

イ　評価の方法

・　表現したことについては，適時相互評価の場やよさを見つけ合う場を設定する。

・　学習の評価は単元ごとに評価の観点を決め，評価規準を設定し，行動の観察や「振り返りカード」により児童の評価を行う。

・　学期末の評価は，次の 4 観点を設け，それぞれ 4 段階による自己評価を取り入れる。また学習活動を通して自分ができるようになったことなど自分への気づきを記述する。それに加えて教師からの所見を記入する。

「1　表現への興味・関心・意欲」　「2　相手に対応した会話や動きをつくる力」
「3　想像する力と表現する力」　「4　自他の表現のよさを見つける態度」

⑤　『キラリ科』を支える教育活動について

ア　朝の活動の時間との連動

始業前の「朝の活動の時間」として，表現力の育成の基盤となる学習活動を取り入れ，『キラリ科』の学習活動との連動を図った。

月	火	水	木	金
児童朝会	ドリル（国語）	全校体育	ドリル（算数）	全校読書
2 週 委員会・クラブの発表 **4 週** **詩の朗読・音楽集会**	プリント教材「あいうえお」を利用し，言語の力の向上を目指す	さぬきっ子パワーチャレンジ種目や持久走，縄跳び等を実施し，体力向上を目指す	計算プリントを利用し，計算の力を伸ばす	学級文庫や図書室の本を読み，読書に親しむ時間

イ　校内環境の整備

校内に各学年の『キラリ科』の活動を紹介する「キラリだより」の掲示を行い，全校生に紹介した。

ウ　保護者への啓発

・　ホームページを作成したり，学校便り「陶っ子だより」や学年便りを発行したりした。
・　自由参観で『キラリ科』の授業公開を行った。
・　保護者にも観劇の案内をして，表現活動への意識高揚を図った。

（２）研究の経過

	実 施 内 容 等
第1年次	①　3年間を見通した研究計画及び研究の構想と研究組織づくり ②　児童における表現力の実態調査 ③　表現力に関する職員研修 ④『キラリ科』についての研究 ・『キラリ科』を教育課程の中に位置づける理論研究 ・『キラリ科』において身に付けたい資質や能力の選定 ・『キラリ科』の教材開発，単元構成 ・『キラリ科』の提案授業を通した試行 ⑤　朝の活動での表現活動の研究（音声言語） ⑥『キラリ科』を支える環境の整備

（３）評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	①　本事業における評価 ・　表現意欲に関する調査（7 月，12月　全学年児童　教師　保護者） ・　学習状況調査の実施（県4月　4～6 学年，町 4 月　2～6 年）と結果分析（8 月） ・　運営指導委員による所見をもとにした評価（7月，1 月） ・　公開授業による保護者の評価（11月） ・　公開研究会による参観者からの評価（2月） ・　道徳性検査（3 年生のみ，3 月） ②『キラリ科』の学習評価 ・　児童の自己評価等の記録の蓄積 ・　教師の指導記録及び通知表「学びのたより」への記録 ・　提案授業での検証

５　研究開発の成果

（１）実施による効果

①　児童への効果

ア　『キラリ科』でねらうコミュニケーション力や表現力，お互いのよさを認め合う力を伸ばすことは，「自分を好き」と思える要素を増やすことにつながっていると考えられる。

イ　低学年では，「ゲームが楽しい」という感想が多い。中学年になると，仲間意識の高まりや表現することの楽しさについての感想が増える。さらに，高学年になると，想像することや表現することの楽しさと人とのかかわりを結びつけた感想がみられた。

ウ　大勢の人の前でも，音読やスピーチを積極的に行う態度が見られるようになった。

② 保護者への効果

『キラリ科』の学習を通して培われるコミュニケーション力や表現力の大切さに気付き，児童のために，学校だけではなく家庭でもその力を高めたいと考える保護者が現れてきた。

③ 教師への効果

ア 教師の変容やついた力

多くの教師が「児童の見方の変容」をあげ「できるだけ児童のよさを見つけようとしている」「児童を多面的に見られるようになった」と答えている。また「研修によりコミュニケーションゲームや表現遊びの楽しさを味わい,内面を開放して表現する楽しさが分かった」「自分自身の表現力が高まった」という教師の表現力・表現意識の向上がみられた。

『キラリ科』を意識することで,児童の表現の多様性を認めることができるようになった。さらに，表現の場を多く設けようと心がけるようになり，他の教科でも言葉の重要性や表情の大切さなどを認識するようになった。

イ 児童理解の変容

今までの教科等では見られなかった児童のよさをみつけることにより，「児童への賞賛･励ましなどの声かけが増えた」「児童一人一人のもった個性を大事にしようと，さらに深く考えるようになった」という意見が多く，児童理解が深まってきた。

（２）実施上の問題点と今後の課題

① 教育課程について

ア 問題点

- 表現に関する教科から数時間ずつ削減したが,内容レベルの削減にならなかったので,時間的なしわ寄せがあった。
- すべての学年で同じ時間設定しているが，学年によって適切な時間配当を考える必要がある。
- 『キラリ科』の教科としての役割が明確でなく，他の教科・領域との関連がまだ十分図られていない。

イ 今後の課題

『キラリ科』のねらいをはっきりさせ，教育課程上の位置づけを考えることにより，他教科や領域との関連が明確になる。そこから，内容削減をする教科や領域を見直す。

② 指導内容・方法について

ア 問題点

- コミュニケーションの基礎的な能力を高めるためには，学習ゲームだけでは不十分である。
- 表現の技能に関する評価が難しい。評価規準が必要であるが，感覚的なところが多く測定できにくいものが多かった。
- 評価の観点を模索したが，知識・理解面の観点が欠けていた。
- 表現を苦手とする児童への個別指導・児童理解が十分でない。

イ 今後の課題

- コミュニケーションの能力を高めるために，スキル的な学習方法を取り入れる必要がある。
- 児童理解を十分に行って，内面を理解したうえで個に応じた支援を考えていく必要がある。
- 評価の観点を他の教科に準じ４観点にする。また技能については,「できる」「できない」が明確かつ客観的な評価基準も定める必要がある。

今年度は一年目であり，実際に学習に取り組んだのは９月ということで数ヶ月の取り組みであり，十分な実践ができていない。そこから生まれた成果と課題であるということを十分理解して二年目の実践を進めていきたい。

綾南町立陶小学校　教育課程表(平成17年度)

	各教科の授業時数									道徳	特別活動	総合的な学習の時間	キラリ科	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育					
第1学年	263 (-9)		114		67 (-35)	59 (-9)	59 (-9)		82 (-8)	34	34		70 (+70)	782
第2学年	271 (-9)		155		70 (-35)	61 (-9)	61 (-9)		82 (-8)	35	35		70 (+70)	840
第3学年	226 (-9)	70	150	70		51 (-9)	51 (-9)		82 (-8)	35	35	70 (-35)	70 (+70)	910
第4学年	226 (-9)	85	150	90		51 (-9)	51 (-9)		82 (-8)	35	35	70 (-35)	70 (+70)	945
第5学年	171 (-9)	90	150	95		41 (-9)	41 (-9)	60	82 (-8)	35	35	75 (-35)	70 (+70)	945
第6学年	166 (-9)	100	150	95		41 (-9)	41 (-9)	55	82 (-8)	35	35	75 (-35)	70 (+70)	945
計	1323 (-54)	345	869	350	137 (-70)	304 (-54)	304 (-54)	115	492 (-48)	209	209	290 (-140)	420 (+420)	5367 (0)

別紙２

学校等の概要

１　学校名，校長名

学校名　　綾南町立陶小学校（りょうなんちょうりつすえしょうがっこう）
校長名　　三好　隆大

２　所在地，電話番号，ＦＡＸ番号

所在地　　香川県綾歌郡綾南町大字陶５８７８
電話番号　　０８７－８７６－１１８２
FAX番号　　０８７－８７６－４７１３

３　学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数，学級数

学年		１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	合計
児童数	男子	３４	３７	３５	３１	３２	２９	１	１９９
	女子	３５	２７	３５	３２	２９	３０	２	１９０
	合計	６９	６４	７０	６３	６１	５９	３	３８９
学級数		２	２	２	２	２	２	１	１３

４　教職員数

校長	教頭	教諭	養護教諭	非常勤講師	実習助手	ALT	スクールカウンセラー	事務職員	司書	計
１	１	１７	１	０	０	０	０	１	０	２１